

カドミレス 黄銅棒

RoHS指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ

丸棒 4.5~60mm

六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社三木商会
東大阪営業所

〒578-0921

大阪府東大阪市水走3丁目5-10

TEL 072-962-8000

FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
富山支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3カ月22,050円

輸入 は合金スクラップを除き減少

アルミ新地金を中心に増加

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

フィッチのギリシャ国債の格下げなどマイナス材料もあったが、中国が欧州懸念の一端であるポルトガル債を購入との噂や、米著名投資会社ゴールドマンサックスなどが金属商品についての中期見通し買いのポジションと判断したことを好感。六月一日現在でLME(現物後場)二、六六ドルスタートとなった。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比二七・八%減の二九万二、〇〇一台であった。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は三〇・六%増の一四万二、一五四台。
- ◆生産計画台数 (震災・計画停電のため発表はなし)
- ◆国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比五・三%増の六万六、七五七戸であった。

(二面へ続く)

東邦 小名浜製錬所が操業を再開

上期の生産量は二割程度減少へ

東邦亜鉛はこの程、東日本大震災で被災し操業を停止していた小名浜製錬所(福島県いわき市)について、六月一日から操業を再開したと発表した。これに伴い、小名浜製錬所で製造した亜鉛原料を地金に加工する安中製錬所(群馬県安中市)も通常操業に戻る見通し。

小名浜製錬所が操業停止した影響などにより、二〇一一年四〜九月の同社の亜鉛製品の生産量は、四万五、〇〇〇トン前後(前年同期は五万七、〇〇〇トン)と当初計画(五万七、〇〇〇トン前後)を二割程度下回る見通しとなった。

スクラップ相場、上げ戻しも

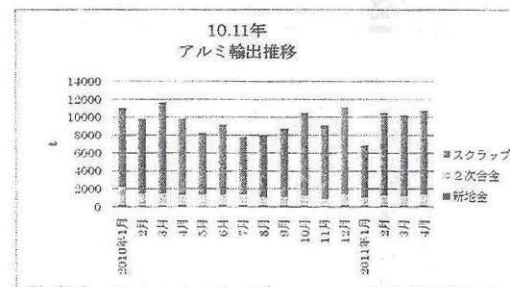
LME相場に上昇要因少ないが

(二面より続く)

◆貿易関連指標

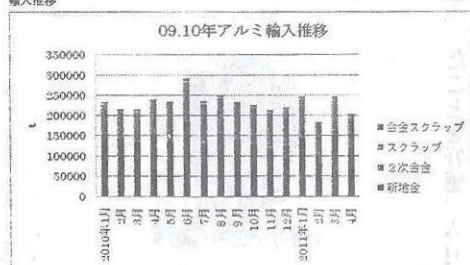
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比六〇％増の二〇〇t、二次合金が一〇・六％増の一、二一〇t、スクラップが三・四％増の九、三二〇t。

	2月	3月	4月
輸出			
新地金	132 t	125 t	200 t
前月比	-28.3%	-5.3%	+60%
二次合金	1179 t	1094 t	1210 t
前月比	+30.1%	-7.2%	+10.6%
スクラップ	9199 t	9012 t	9320 t
前月比	+59.2%	-2%	+3.4%
輸出推移			



輸入は新地金が前月比二五・二％減の一、二万〇、五四七t、二次合金が三・九％減の七万七、八八一t、スクラップが四・六％減の八八二t、合金スクラップは四・九％増の四、三二二t。

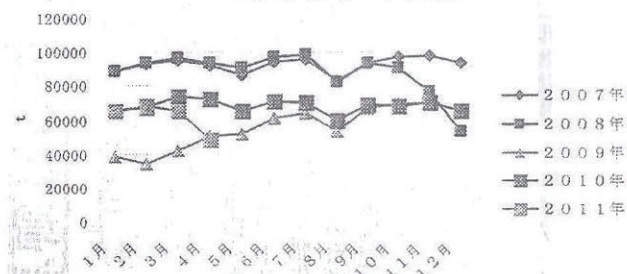
	2月	3月	4月
輸入			
新地金	10万7760 t	16万1242 t	12万547 t
前月比	-26.2%	+49.6%	-25.2%
二次合金	7万657 t	8万1073 t	7万7891 t
前月比	-26.2%	+14.8%	-3.9%
スクラップ	555 t	925 t	852 t
前月比	-33.2%	+66.7%	-4.6%
合金スクラップ	3623 t	4123 t	4323 t
前月比	-20.7%	+13.8%	+4.9%
輸入推移			



【前月の国内指標】

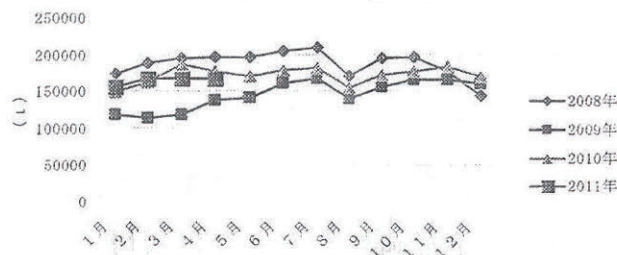
日本アルミニウム協会発表の圧延品品の生産

アルミ2次合金等生産実績



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比二六・六％減の四万七、九五〇tであった(昨年の前月比一・八％減)。(六面に続く)

アルミ板類・押出生産合計推移



出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比〇・七％減の一六万六、一六八t(昨年の前月比五・二％減)。

(二面より続く)

【見直し】

前月の業界指標は震災の影響を最も受けた形となった。

壊滅的な影響を受けた自動車生産は前月比二七・八%減の二九万台、昨年の前月比二二・五%減から大幅悪化。自動車関連のアルミ二次合金生産も前月比二六・六%減の四万七、九五〇tと昨年の前月比一・八%減と比べ大幅悪化した。

四月の国内自動車販売は、一四万二、一五四台(前月比三〇・六%増)と昨年の前月比(二八・四%増)から小幅上昇するも、昨年単月比では四〇%減と先月に続き震災の影響で大幅減。

仮設住宅による復興需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比〇・七%減と昨年の前月比五・二%減から大幅改善した。

新設住宅着工数は前月比五・三%増の六万六千戸台。下げ止まりが見られた。

輸入塊は上海シグマが五月末現在で二、五〇〇ドル、ロシア塊は二、一五〇ドルと小幅下落。

米非製造業
総合指数

二月以降で初めての上昇

新規受注などが改善—ISM

米供給管理協会(ISM)が三日発表した五月の非製造業総合指数(NMI)は五四・六と、昨年八月以来の低水準となった四月の五二・八から上昇した。市場予想は五四・〇で、これを上回った。

指数が上昇したのは二月以来初めて。ただ年初来の高水準は下回っている。

五〇が景気を見極めるうえでの分岐点となる。

内訳では、新規受注が前月の五二・七から五六・八に上昇したほか、雇用も五四・〇と、前月の五一・九から上昇した。

価格は前月の七〇・一から六九・六に低下し、昨年十二月以来の低水準となった。

最新の経済指標が失望を誘う内容となっているのか、それともより長期化する恐れがあるのか疑問が高まっている。

サービスセクターは、米経済の約七〇%を占める。

ソシエテ・ジェネラルのシニアエコノミスト、ルーディー・ナーバス氏は「さえない経済指標に希望の光が見える」と指摘。東日本大震災による部品不足問題に関連し、「影響を受けているのは製造業セクターだけで、I

輸入は内需減少を受けて新地金二五・二%減、二次合金三・九%減(共に前月比)と大幅減。

輸出は新地金六〇%増、二次合金一〇・六%増と輸出増、輸入減の形となった。

LME価格について、新規材料難の中、原油高によるコスト上昇、日本の需要回復もプラス要因ではあるものの、米中の経済指標に一服感ができており一本調子の上昇は考えにくく、調整ありとの予測から二、五五〇、二、六五〇ドル。

アルミ原料価格に関してLME価格に上昇要因は少ないものの、最大の需要家である自動車メーカーの震災によるサプライチェーン問題も解決のめどがつき、六月で震災前計画の八割程度、その後順次回復で二〇一一年全体では昨年並みとの発表や、輸入統計上二次合金輸入がその需要に対応できるほど進んでいないことから需給は逼迫。

また、今までの便乗値下げ分の値戻しも加わり、五月後半価格から一〇〜一五円上昇予測。

SM非製造業統計はある意味、これを裏付けている可能性がある」として、さえない経済指標は一時的との見方を変えていないと述べた。

米失業率
二カ月連続で上昇

雇用者も五万四千人増にとどまる

米労働省が三日発表した五月の雇用統計によると、失業率は九・一%と、二カ月連続で上昇した。また、景気動向を反映する非農業部門就業者数は季節調整済みで前月比五万四、〇〇〇人増にとどまり、増加幅は前月(二万三、〇〇〇人増)改定を大きく下回った。雇用や景気の回復に懸念が強まりそうだ。

市場予想(時事通信調べ、中央値)は、失業率が八・九%、非農業部門就業者数が一七万五、〇〇〇人増だった。

五月は、民間部門の就業者数が八万三、〇〇〇人増と、増加幅は前月の二万五、〇〇〇人増から急減。小売りがマイナスイナスに転じたのが大きく響いた。物品生産部門は三、〇〇〇人増で、このうち製造業は五、〇〇〇人減。建設業は二、〇〇〇人増。